

# 老健局

Health and Welfare Bureau for the Elderly

## 安心して暮らすための 介護保険制度を目指して

### Our Mission

これまでに例のない超高齢社会を迎える我が国において、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、介護保険制度をはじめとする高齢者介護・福祉施策を推進しています。

### 部局の所掌分野

#### 介護保険制度の運営

ホームヘルパーやデイサービスといった各種の介護保険制度のサービスについて定めるとともに、安心して利用できるよう基準を定め、サービスの質を確保しています。

#### 介護報酬の決定

介護保険サービスの「料金」を決める介護報酬は、基本的には3年に一度改定されます。現在は、平成30年度の介護報酬改定に向けて、審議会において議論が進められています。

#### 保険者(市町村)との連携

介護保険は市町村を保険者としており、保険料も保険者ごとに異なっています。厚生労働省が指針を策定し、各市町村は3年を1期としてサービス整備計画を立てています。



#### 介護予防の推進

高齢者が、介護保険制度なしに、又は利用して、一人で生活できるように、好事例等を集めて全国展開を図るなど、介護予防・自立支援を進めています。



#### 高齢者虐待の防止

高齢者が安心して暮らし続けることができるよう、高齢者虐待はあってはなりません。その早期発見のための先進的な取組事例を周知すること等を通じて、高齢者虐待の防止に取り組んでいます。

## 政策紹介 1

### 「介護離職ゼロ」を目指して

アベノミクス新・3本の矢の一つとして掲げられた「介護離職ゼロ」は、親への介護を理由に離職する人をなくそうという政策であり、「介護離職ゼロ」を目指して、これまで、介護施設の整備や介護休業を取りやすい環境づくり等の取組を進めています。

併せて、一億総活躍社会の実現に向けて平成28年6月に「ニッポン一億総活躍プラン」を閣議決定しており、介護職員の処遇改善も実施します。これまでの取組に加えて、平成29年度から介護人材のキャリアアップの仕組みを構築し、月額平均1万円相当の処遇改善を行うための臨時的な介護報酬の改定を行いました。



### KEY WORD

#### ねんりんピックの開催

全国健康福祉祭(愛称:ねんりんピック)は、スポーツや文化種目の交流大会をはじめ、健康や福祉に関する多彩なイベントです。昭和63年から毎年、老健局と地元都道府県が主催しており、平成28年は長崎県で開催され、平成29年の第30回大会は秋田県で開催予定です。



## 政策紹介 2

### 介護分野におけるロボット・ICTの活用

介護分野を担っていく人材を確保することは課題の一つであり、老健局では、介護ロボットの導入やICTの活用を支援しています。

介護ロボットは、介護の質を高めるとともに、介護従事者の身体的負担の軽減等のための活用が期待されており、移乗や排せつ等の分野に対応した介護ロボットの導入を支援しています。

また、介護の質を低下させずに現場の業務負担の軽減を図る観点からは、介護記録の作成・保管等をICT化することにより、間接的業務の所要時間を削減することが考えられ、その支援を行っています。



## 政策紹介 3

### 認知症とともに生きる社会づくり

日本では、2025年には65歳以上の5人に1人(約700万人)が認知症になると予想されています。今や認知症は誰もが関わる可能性があり、認知症の方が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境の整備が求められています。

平成28年1月に、これまでの厚生労働省の戦略を国家戦略に引き上げ、12の関係府省が共同で認知症施策の総合戦略「新オレンジプラン」を策定しました。

老健局では、認知症の方やその家族を支援する「認知症サポーター」を増やすことや、情報交換や相互理解のための「認知症カフェ」を広めること等を通して、認知症の方やその家族が暮らしやすい環境を整えています。



### KEY WORD

#### 世界の中での日本の介護保険

世界でも例のない高齢社会を迎える日本の介護保険制度は、世界からも注目を集めています。

日中韓高齢化セミナーや日独高齢化シンポジウム等の国際イベントに出席し、介護保険制度について紹介するほか、来日した海外の行政機関職員等に日本の介護保険制度についてのブリーフィングを行うなど、国際的にも注目を集めています。

